福知山へのアクセス

京都市内・大阪・神戸からのアクセスも抜群

- JR 京都駅→福知山駅　最短 75 分
- JR 大阪駅→福知山駅　最短 90 分
- 大阪なんば→福知山駅 107 分（高速バス）
- 神戸三宮→福知山駅　90 分（高速バス）

福知山公立大学
The University of Fukuchiyama

〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
TEL.0773-24-7100　FAX.0773-24-7170
http://www.fukuchiyama.ac.jp
福知山公立大学　検索

公立大学法人 福知山公立大学 2017 大学案内

福知山公立大学　2017大学案内

〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370　TEL.0773-24-7100　FAX.0773-24-7170　http://www.fukuchiyama.ac.jp

The University of Fukuchiyama

地域を変える。
日本が変わる。
世界は変わる。

京都の新しい公立大学

福知山公立大学
The University of Fukuchiyama

地域経営学部　地域経営学科／医療福祉経営学科

今の日本に必要なのは、地方を活性化させる力。

日本活性化の基盤となる地域再生。地方の問題から、日本、世界について考える。

人口減少や高齢化の進行、産業の衰退、雇用の減少、中心市街地の空洞化、地域交通の弱体化、耕作放棄地や鳥獣被害の拡大…etc.都市部への人口流入が続く裏側には、これらの地域問題が深刻化している。政府はこのような地方の人口減少問題を主要課題として取り上げ、「まち・ひと・しごと創生本部」を設置した。が、時を同じくして民間研究機関「日本創生会議」がリストアップした「消滅可能性のある自治体」の報告では、2040年には全国で523の自治体が消滅している可能性があると算出している。※

地方が抱える諸問題に対する有効な政策が実施されているとは言い難い状況だ。実際に、「都市と地方の問題」は高度成長期以来の構造的な問題であり、目先の政策ではなく、問題解決には構造の抜本的な改革が必要なのだ。

※20～39歳の若年女性の人口をその地域の将来を決定づける指標と位置づけ、その人口が2040年にかけて5割以下に減る自治体を「消滅可能性都市」としている。

福知山市を変える、そのノウハウが日本を変える。その気概は世界をも巻き込むムーブメントとなる。

福知山市のある京都府北部地域は、人口減少や高齢化の進行など、まさに日本の地域問題の縮図とも言うべき典型的なエリアである。反面、豊かな自然や歴史的遺産など様々な資源に恵まれた地域で、京都縦貫道の開通など交通インフラの整備や「森の京都」「海の京都」をキーワードにした京都府の試みなど、厳しい状況を打破する希望の光も見えつつある。

また、OECD（経済協力開発機構）によるプロジェクトに、人口減少・高齢化の先端地である京都府中北部地域を取り組み事例として提供し、OECDとの協働プロジェクトを推進している。

このように京都府北部地域は地域活性の観点から、国内のみならず国際的に注目を浴びている地域なのだ。このような地方創生の取り組みに際してカギを握るといわれているのが「大学」の存在だ。大学には専門家、教育家、そして学生といった大きな人的資源がある。その大学と地域がしっかりと手を組み、「グローカル」な視点を持った人材を育成するとともに、地域の生活や産業を育んでいく取り組みに注目が集まっている。そして、そのような活性化の動きを具体的なカタチにしていくことが大学の役割。大学が長期的、恒常的に各種事業を地域と協働して推進し、地域自らが再生し、課題解決能力を獲得する仕組み作りを行っていく。福知山市のある京都府北部地域の活性化は、まさに福知山公立大学がその使命を担って今動き出すのだ。

contents

学長・副学長対談 03
教員紹介 05
地域経営学部 11
地域経営学部 学びの特徴 13
地域経営学科 15
公共経営系 17
企業経営系 19
交流観光系 21
医療福祉経営学科 23
教員一覧 27
キャンパスライフ 29
キャンパスカレンダー・クラブ・就職サポート 31
キャンパス施設・設備 33
キャンパス周辺紹介 35
学費・奨学金 37
入試情報 38

※医療福祉マネジメント学科は医療福祉経営学科に名称変更届出予定です。当冊子では医療福祉経営学科に表記を統一します。

学長・副学長対談　地域経営に向けた熱い思い

福知山全体をキャンパスに、学生、教員、地域の人々が一体となり、新しい学問と持続可能な地域づくりに挑む。

地域経営学という新たな学問体系を築く

学長　2016年4月に福知山公立大学が開学し、新たに地域経営学部がスタートしました。経営というのは、企業をはじめ、NPOや地方自治体など、あらゆる組織体に対する運営と維持・発展に関する理論と知見のことをいいます。それを「地域」に当てはめるわけですが、企業経営などとの一番の違いは、担い手となる主体が見えにくいということです。実際には地域の主体は住人一人ひとりにあり、その意識を地域の人たちと共に醸成していくなかで、新しく理論化していく作業というのが、地域経営学であると考えています。

副学長　以前は経営＝企業経営という意味で捉えられていましたが、その概念も時代とともに変わり、今ではあらゆる組織体でマネジメントが必要であることは認識されています。同様に、「公共」や「地域」の概念も大きく変わり、例えばグローバル化社会を迎え、世界での出来事が地域にも影響を及ぼすようになりました。逆もしかりで、このようにこれまでの社会と大きく変わってきたものの受け入れ方を考え、地域経営学という体系のなかで明確にし、人々を育てていく。それを最も先進的なカタチで実践していくことが、私たちが福知山公立大学で試みようと思っている挑戦です。

学長　私自身も地域に住む一人の「個人」ですが、そこから一歩離れ、人とのつながりができれば、それはもう「公」になっていく第一歩です。その公共がないと実は「個」は成り立たず、この辺りの哲学も含めて、基礎から理論をつくっていく必要があります。今まである学問のなかからそういうことを一つずつ確認し、時には地域の方々にも学びながら、学生たちと共に地域経営学を確立していくのが、私たちのめざすところです。

地域の皆さんと手を組んだ徹底した実践教育を展開

副学長　地域の方々に学ぶ具体的な取り組みとなるのが、「実践教育DAY」です。地域団体や企業、自治体、農家などの現場まで足を運び、お話を聞き、仕事を体験し、考え、動き、汗をかきます。この丸1日の現場におけるワークと教室でのワークを1年間繰り返します。夏休みだけ、といった従来の体験型学習と違い、持続的に現場との往還を繰り返すことで、年間計画で作業に取り組めるなど、体験が細切れになりません。また、一過性の“お客さま”ではなく、より現場の方たちに近いカタチで作業に当たることで、実感をともなって地域の課題も見えてくるはずです。

学長　「実践教育DAY」では福知山全体がキャンパスとなり、学生や教員、そして地域の人が共に学び合える場にしたいと考えています。つまり、学生が学ぶのはもちろん、大学と共同することで地域の人たちにも自分たちが地域経営の主体であり、大きな力になり得ることを再認識し、その意識を醸成する場にもしていただければと考えております。それが結果的に地域活性化や、持続可能な地域づくりにもつながっていくはずです。

副学長　地域と連携することで、日々の実習が学生たちにとっては行政や企業の人たちに自分をアピールする場になり、その意味では就職活動の場にもなるわけです。一方、受入側にとっても若い人が入ってくることで新しい視点の導入など、さまざまなインパクトを受けられるでしょう。

学長　若者人口の減少など、福知山と同様の問題を抱えている地域は日本各地にあると思います。そこに新しい大学ができて、若い人たちが集まり、それがこの町の住人として一体となって動き始めたときに、きっと新しい持続可能な地域社会の展望が生まれてくる。そんな実験をこの町でやりたいというのが我々の想いで、その実践の場の一つが「実践教育DAY」になるわけです。

副学長　この実践教育における丸1日の現場でのワークは、他大学では経験できない試みになります。学生、そして地域の皆さんとその一歩を踏み出し、共にチャレンジしていけるのを楽しみにしています。

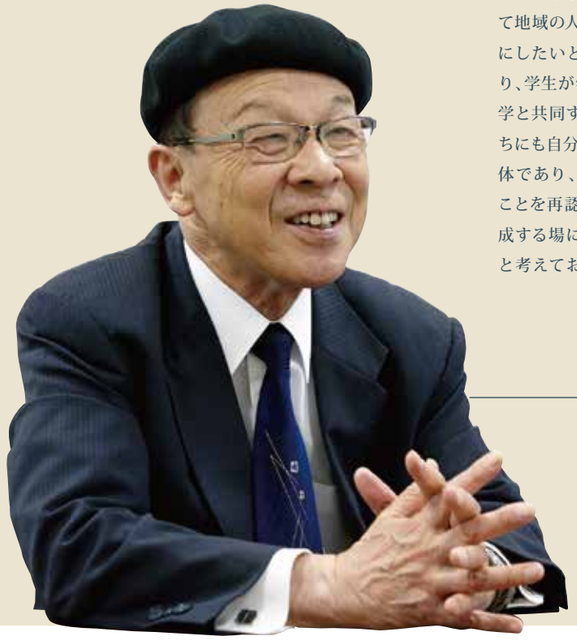
新しい大学、学問、持続可能な地域を学生たちがつくっていく

学長　高校までに自分のことを発見し、進むべき道が見えている人はそう多くはないと思います。大学の4年間でいろんなことに挑戦するなかで自分探しを行い、本当に自分がやりたいことを見つけてください。好きなこと、やりたいことさえ見つかれば、どんな人でもそれに全力で取り組めるようになるはずです。

副学長　私は今の学生たちの能力が低いのではなく、あるはずのチカラを発揮しにくい状況になっていると思うんです。「実践教育DAY」をつくったのはまさにそこで、外に出て地域の人たちと何かを一緒にやるということを繰り返すなかで、「何をやっていいのかわからない」という殻は自然と破れます。実際に、これまでに多くの実践型教育の現場に立ってきましたが、フィールドに出ると学生たちの顔が生き生きとします。いろんな外の世界と触れることで、これまでになかった自分を発見し、自分自身をつくっていってほしいですね。

学長　新しい大学を、新しい学問を、そして持続可能な地域を、それぞれつくろうとしているのが福知山公立大学です。そこまでの道のりは簡単ではないかもしれませんが、その実現に燃える、情熱を持った先生方が集まってくれました。学生の皆さんには、何事にも諦めず、そんな先生方に全力でぶつかっていける、冒険心を持ってほしい。福知山のフィールドを最大限に活用し、いろんな新しいことにチャレンジしてください。

副学長　エコロジカルな視点などから、都市部だけではなく、近年地域への関心も高まってきています。そういう人たちが地域に入り、持続可能な仕組みの道筋をつくっていくのも私たちの役割だと思っています。関心を持っている人はどんどん入ってきてほしいですね。そして、その受け皿がすでにあるのではなく、教員や地域の人たちと一緒になって皆さんがつくるわけです。一方通行の指導ではなく、学生自身が主体的に学ぶのが本来の大学の姿であり、それを私たちは地域の人たちも含めてやろうとしています。その試みは刺激的で、きっと面白いと思いますよ。



学長　井口 和起

Profile

京都府福知山市生まれ。大阪外国語大学、京都府立大学で教鞭をとったのち、京都府立大学学長、京都府立総合資料館館長を歴任。専門分野は歴史学。京都府立大学名誉教授、京都府特別参与など、各方面で活躍する。

副学長　富野 暉一郎

Profile

企業経営者を経て、逗子市の市長に就任。その後、島根大学、龍谷大学で教鞭をとる。専門分野は地方自治。京都府北部地域・大学連携機構の理事も務める。

教育理念

福知山公立大学は「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」を基本理念としています。そして、その理念の下、地域経営学部は、地域（ローカル）に根を下ろし、世界（グローバル）にはばたく人財（グローカリスト）育成をめざします。

やってみたいことを
すでに極めてるヒト

教員紹介

地域にこそ、世界を豊かにするヒントがある。

平野 真 教授 HIRANO,Makoto

専門分野／国際経営学、地域活性化論、起業論、
イノベーション論、技術経営

Profile

早稲田大学理工学部応用物理学科卒、同大学院理学修士修了。日本電信電話公社（現NTT）通信研究所に入職。1998年、自らが開発した無線用IC技術の事業家をめざし、NTTエレクロニクスに出向してベンチャープロジェクトを立ち上げる。2000年には米国でのビジネス立ち上げに携わり、法人設立、経営にトータルに参画。2002年、米テンプル大学でMBA取得。その後、高知工科大学大学院起業家コース長、芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科教授を経て、本学地域経営学部学部長に就任。

My Favorite …

学生時代にホログラフィーというレーザーを使った立体写真に取り組み、第一回西武美術館版画大賞展に入選。ニューヨークで個展も開き、「現地ではアーティストとも交流を深めることができ、20代の頃にどんどん現代アートにのめり込んでいきました」。現在も年に1回は個展を開いているほか、絵本の制作も手がけ、これまでに5冊を上梓している。アートや演劇、音楽など、活動を通じて各業界に広まった人脈は地域活動にも生かされ、「自分がやってきたことのすべてが今につながり幸せです」と笑顔を見せる。

物質に頼らずに、人を豊かにするあり方を追究する。

特定の地域の活性化を考えるに当たり、まずはその土地の観光や産業の資源について探るだろう。もちろん、資源はあるに越したことはないが、何もないから可能性がないということにはならない、と平野先生はいう。

「砂浜に立てた柱の間にロープを渡し、イラストを描いたTシャツを展示する『砂浜Tシャツアート展』を行う高知県の砂浜美術館がいい例ですが、何もないところからでも観光資源をつくり出すことはできます。むしろ、お金も資源も技術もない、そこから生み出す知恵みたいなものにこそ世界の人が注目しているわけです」。

その資源がない地域を発展させていくためのキーワードとなるのがITとアートだ。実際に平野先生自身、高知県宿毛市沖の島を中心に展開された「沖の島アートプロジェクト」において、離島である鵜来島を舞台としたリアルRPGツアー『るくる島黄金伝説』を共同開催するなど、アートと地域活性化をつなげる取り組みを数多く実践し、成果を上げてきた。「このアートやITを活用した取り組みを、ここ福知山でも展開していきたいと思っています」と語り、福知山城の近くにある竹林をライトアップする「福知山アートプロジェクト（仮）」が早くも動き始めている。

福知山アートプロジェクトが始動

竹林のライトアップに使う灯篭は、和紙と竹、空き箱やペットボトルなどを利用し、中には安価なLEDライトを入れる。「ポイントは、誰でも簡単につくれて、安価に制作できるところ。学生はもちろん、地域の小中学生や市民の方に灯篭づくりから参加していただく予定です」。今後、本学の「全学実践教育DAY」で制作のワークショップを開き、夜の光のプロムナード祭として9月にイベントが開催される予定だ。

「2018年度からは京都工芸繊維大学北京都分校が本学の敷地内に開校します。同校の学生や地元の和紙職人の方などとも連携し、よりアート性の高い灯篭の制作なども考えられるでしょう。また、一度灯篭をつくると持ち運びができるので自宅で照明として楽しめるほか、舞鶴など他地域で行われるキャンドルナイトなどへの参加も可能です。ゆくゆくは北近畿一帯をつなぐ、広域の光のイベントに発展していけば面白いですね」と構想を語る。

一方、平野先生は日本の製造業の中小企業の問題についての研究にも取り組み、その分野での実践も視野に入れる。「ドイツ政府が推進する製造業のデジタル化プロジェクト『インダストリー4.0』は第4の産業革命といわれ、今世界中で急速に拡がりつつあります。この波に乗り遅れることは日本の製造業にとっても死活問題であり、地域の製造業におけるIT活用の分野においてもお役に立てればと考えています」と平野先生。人のつながりをつくり出す仕組みはもちろん、地域に根づく産業の底上げも大きな課題として、今後精力的に活動を拡げていく予定だ。

地球を救う、最先端の研究の場

1972年に出版された『成長の限界』という本において、「人口増加や経済成長を抑制しなければ、地球と人類は、環境汚染、食糧不足などにより100年以内に破滅する」といった指摘がなされている。この構造は物質文明が生んでいるわけだが、限られた資源を消費するのではなく、物質に頼らない仕組みを考え出せれば、地球の滅亡に結びつかないような豊かな時代が築ける可能性がある。

福知山アートプロジェクトを構想するに当たり、年間1000万人が訪問する嵐山の竹林を学生たちとフィールドワーク。駅構内や周辺のゴミ箱など、まちの景観全体にどのような工夫がなされているのかを見て回った。

「最初にもいいましたが、お金も資源もないところからどのように地域が立ち上がるのか。それを考えるのは規模の小さなレベルの低い話ではなくて、むしろそこにこそ、これからの地球を考える上でのヒントが隠されています。これは経営的にも大企業の問題を扱うよりよっぽど先端的な話題で、つまり“物質を使わずに、無形資産のなかでどうやって人が豊かになるか”を示すことができれば世界を救えるわけで、その最先端の研究の場が地域にあるわけです」。

それは、福知山で学生たちが取り組む地域の課題が世界につながっていくということで、まさにここには本学が推進する“グローカルな学び”の実践がある。

人を呼ぶ仕組みはもちろん、産業の活性化や特産となる食や工芸の創出を視野に入れ、研究活動を行う。

やってみたいことを
すでに極めてるヒト

教員紹介

“価値のものさし”を変える。

谷口 知弘 教授 TANIGUCHI,Tomohiro
専門分野／地域政策、コミュニティ・デザイン、ワークショップ

Profile

京都工芸繊維大学大学院修了後、デザインコンサルタントに就職し、家具や百貨店の什器などプロダクトデザインを手がける。それ以降、京都工芸繊維大学を皮切りに、立命館大学、同志社大学で教鞭を取る。市民・企業・行政などが協力して取り組む「協働まちづくり」によって市民力が高まるとともにソーシャル・キャピタルが醸成され、持続的な問題解決活動につながるとの仮説を立て、「Tシャツからまちづくりまで」をキャッチフレーズに、学生や地域の人たちとともに日々研究・実践に取り組む。

My Favorite …

趣味は散歩とfacebookにInstagram（セルフポートレイトの達人！）。仕事やプライベートで訪れた町の「日常の風景にお宝スポット」を発見、自身の姿とともに写真に収め、世界に向かって発信する（=www.instagram.com/taniguchi.tomohiro/）。2016年4月からは福知山市民となり、まち歩きを通じて早くもお気に入りのスポットもできたようで、先生のオススメは明治37年創業の老舗銭湯の「櫻湯」と古本と珈琲のお店「モジカ」。また高校時代は美術部に所属し、今でも年に1回はグループ展に作品を出品する。

持続可能な地域社会を創る「コミュニティ・デザイン」を実践。

大学院で都市景観について学び、その頃に「ユーザー参加型のデザインプロセス」に関心を持ったという谷口先生。その初めての実践の場となったのが、1994年に手がけた兵庫県赤穂市坂越地区のサイン計画の仕事だった。「プロダクトデザインの世界でモノをつくるとき、ユーザーの求めるものが最も重要視されます。地域のサイン計画を手がけるこの案件の場合、ユーザーに当たるのはそこで暮らす人々でした。住民の方々にヒアリングをするところからスタートしました」と当時を振り返る。

単にこちらから質問するだけではなく、同じ場所・時間に住民の方々に集まっていただき、意見をぶつけてもらう。そのなかで地域の住民が今どんな課題を抱え、また地域にどんな想いや夢を抱いているのかを引き出していった。「このプロジェクトでは、一般的な案内や誘導のサインに加えて、住民の「もてなし」の気持ちを表現するシンボリックサインをデザインした。このサインには祭事に住民手作りの「旗」が掲げられる。色やカタチに設置場所、設置後の活用に至るまで、住民の方々との対話があって初めて実現できたプロジェクトだったと思います」。この経験から谷口先生はワークショップの重要性を実感し、その手法を積極的に取り入れながら、これ以降「コミュニティ・デザイン」と名づけられた“市民参加のまちづくり”のプロジェクトを数多く手がけていく。

地域の人たちが多様な主体と協働するまちづくり

コミュニティ・デザインの実践・研究の代表的な具体例としては、嵐山さくらトイレ（京都市）、かもがわ公園出町 de ワークショップ（鴨川公園出町地区整備事業、京都市）、京都市未来まちづくり100人委員会（京都市）、中京マチビトcafe（京都市中京区）などが挙げられる。「各プロジェクトで共通しているのは、地域の人々が行政や事業者、学生、専門家など多様な主体と協働すること。自ら問題を発見し、解決に向けて行動することです。」と谷口先生。地域の人たちが自分ごととして取り組むことで、持続可能なまちづくりは実現する。プロジェクトはあくまできっかけで、それ以降が本当のスタートとなり、そこには住民の主体性が求められる。

「実際に、協働の場で形成されたコミュニティが、それ以降にNPO法人に発展したという例もあります。また、そこで築かれた人と人のつながりも大きな財産となり、新たなプロジェクトが生まれる。コミュニティ・デザインの醍醐味です。」

地域の人の“当たり前”にスポットを当てる

コミュニティ・デザインの主なフィールドは、これまでは京都市内が多かったが、近年では中山間地域での活動も増えてきたという谷口先生。例えば、出身地でもある京都府山城地域におけるプロジェクト「宇治茶世界文化遺産登録推進プラットフォーム」では、地域の人たちと現地を歩き、語り合い、地域資源の発見と活用に取り組む。

宇治茶世界文化遺産登録推進の取り組み。宇治田原町湯屋谷（出身地）で試みた「茶畑カフェ」。わかもん×よそもん×ばかもんで地域資源を発見し活用した実験的試み。

「それらの地域の現場に行くと、自然や歴史文化、ネットワークなど、その土地にある地域資源の豊かさに気づかされます」と話すが、一方でそこに暮らす人たちはその風景が当たり前のものとして、魅力として認識していない。「地元の人たちが自分たちの地域の魅力に気づき、それを大事にしようと考えたときに、“価値のものさし”が変わるんじゃないかなと思うんです。田舎から、地方から日本を変える！大きな可能性を感じています」。

未来のステークホルダーが集う知恵を集めて未来を創る

その可能性を実現するために大切なこととして谷口先生は、よそもん（地域以外の人）、わかもん（既成概念にとらわれない若者）、ばかもん（地域のために並外れた情熱を持つ活動の担い手）の協働の重要性を説き、それを実践できる最良のフィールドが福知山を核に京都府北部、北近畿にはあるという。「美しい里山や受け継がれる生活文化をはじめ、多くの地域資源があります。そして公立大学ができたことで、これまで以上に全国から多くの若者が集まってくるでしょう。ここでの活動や成果が、きっと日本の地方を変えるモデルになるはずです」と、その言葉は力強い。谷口先生たちの取り組みが福知山を、そして日本を変える日も、そう遠くではないかもしれない。

本学でのフィールドワーク第一弾として、福知山市雲原地域にある「みんなの和楽家」や農家民宿の「雲の原っぱ社」などを訪問。同民宿の代表を務める吉田美奈子さんとはワークショップを通じて出会い、そのつながりが今に生かされている。

やってみたいことを
すでに極めてるヒト

教員紹介

医療英語にも強い診療情報管理士を育てる。

岡本 悦司 教授 OKAMOTO,Etsuji
専門分野／医学、法学、公衆衛生学

Profile

近畿大学医学部卒業後、大阪大学法学部に学士入学。その後、横須賀米軍病院で1年間臨床研修に取り組む。研修終了後、関心を抱いた公衆衛生の分野の知見を深めるため大阪大学大学院へ。在籍中にアメリカのUCLA公衆衛生学部に留学する。修了後は母校の近畿大学で講師となり、2001年10月より国立保健医療科学院（入職時は国立公衆衛生院）へ。本学では専門分野のほか医療英語の科目も担当し、語学力向上にも力を注ぐ。

My Favorite …

趣味は歴史。実家は現在大河ドラマで話題の真田丸（大阪城南方に築かれた砦）のすぐ近くだそうだが、「戦国時代ではなく、近世の戦記モノが好きです」と岡本先生。なかでもドイツの宰相ビスマルクが好きで、感銘を受けた「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」という言葉は自身の座右の銘にも。歴史の専門書などもよく読み、「自宅では医療関連の書籍は開きません」と笑う。日露戦争の日本海海戦にも興味があり、その舞台となり、福知山市から近い舞鶴港にも足を運びたいと意欲を見せる。

医療福祉の問題を社会的な視点からも考察する。

保健所や保健センターなど公衆衛生関係の職員の研修機関である国立保健医療科学院。厚生労働省が管轄する同施設で、岡本先生は国際保健担当の統括研究官として勤務していた。「14年間勤め、特に最後の3年間に力を入れていたのが、UHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）の実現を目標に、各国の医療政策の中核となる人材を育成する事業です」。UHCとは、「どんな人も、どこにいても、金銭的に大きな無理なく、質の高い保健・医療を受けられる」ということを意味し、具体的な施策としては社会保険の拡充、引いては国民皆保険制度の実現をめざす取り組みのことを指す。「UHCの達成は国連も推進しています。アジアで皆保険制度の最も古い歴史を持っている日本は、この分野の先進国。国際的な活動でありながらアメリカが主導権を握れない分野であり、国家戦略上でも重要な意味を帯びています」。

同事業では、アジアの途上国の医療従事者、保健省の官僚などの専門家を対象に2～5週間の研修を行い、各プログラムのコーディネートを岡本先生が担当。「UHCの担い手の育成や、自国の先端医療を海外の人が受診しに来るメディカル・ツーリズムなど、医療分野の国際化は国策の側面からも着目されています」とその重要性を語る。医療福祉経営学科では、それらの現場で不可欠となる医療英語の習得にも積極的に取り組み、まずは2年次の段階で医療英語検定4級の合格をめざす。

医学の知識を有した診療情報管理士を育てる

本学科で養成する診療情報管理士の仕事は、医療報酬制度の改変により、近年その役割の重要度が増している。具体的には、これまでの出来高制度よりDPC（包括医療費支払い制度）へと変わり、入院患者の医療費が診断病名で決められる仕組みとなり、その疾病を分類する役割を担うようになった。「入院患者のカルテに、病名が一つだけ記されているということは、まずないでしょう。例えば、精神の疾患を持っている方が、糖尿病が悪化したことで足が不自由になり、そのための外科手術を受けるために入院したとします。カルテには精神科医、内科医、外科医の診断が記されるわけですが、そのなかから今回の入院の主症状は何かを判断し、疾病を分類した上で請求を行わなければなりません」と話す。

また請求時には、世界保健機構（WHO）が定める世界共通のコード（国際疾病分類）に従い、病名を記号化する必要がある。この作業をコーディングといい、診療情報管理士に求められる技術の一つだ。「コーディングをする際には、各疾病の相関関係も頭に入れておく必要があります。例えば、糖尿病と腎症の関係性を知っていないと、正確なコーディングはできません。本学科では疾病や人体のことなど、医学部のエッセンスを伝える科目も多数開講され、そこには『しっかりとした医学の専門知識を有した診療情報管理士を育成する』という目的があります」。

地域と連携し、糖尿病の重症化予防にも取り組む

糖尿病による腎不全患者は現在31万人。そのうちの15万人が糖尿病発症後にきちんとしたケアをしなかったことで、腎不全を起こしたと推定されている。逆に言うと、しっかりと糖尿病をコントロールさえすれば、約半数の患者の腎不全は防げたということになる。「この糖尿病の重症化予防も私の研究テーマの一つで、保健医療科学院時代も同施設のある和光市の住民を対象に、診療記録の解析をはじめ、地域と連携した取り組みを実践してきました」。同様の活動を福知山市、さらには北近畿で学生たちと取り組むことも、岡本先生は今後の展望として掲げる。「糖尿病が原因の腎不全はメカニズムが解明されており、未然に防ぐことができます。この事例のように、医療の問題は医学の問題だけではありません。つまり、情報の共有や検診の徹底化など、社会の問題でもあるわけです」。そこに地域経営学部で医療福祉を学ぶ意義があると語る岡本先生。高い専門性を持った上で、社会の仕組みづくりにもコミットしていける、そんな医療・福祉人を育てていくのが、岡本先生の今後のミッションだ。

医療分野でも国際化が進み、必然的に医療英語の重要も高まってきている。

前職時代、国際協力事業団（JICA）と連携した「アジア地域におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のための社会保険制度強化」の研修事業に取り組み、岡本先生はそのコーディネートを手がけた。

地域経営学部

地域に根ざし地域活性化を担いながら、
日本各地そして世界が抱える課題への対応力を備えた
グローカリスト（glocalist）を育成します。

地域経営学とは、営利、非営利を問わず地域社会において活動するあらゆる団体が、地域社会のさまざまな資源を有効に企画・運営・管理することで、地域社会づくりや創り直しに寄与したり、活力のある持続可能な地域社会の形成に貢献する総合科学です。

2学科で構成される「地域経営学部」は、福知山市をはじめとする北近畿から日本全国、そして世界において活躍できる“人財”を養成し、学んだ知識と国際的視野を持って、地域社会やさまざまな現実の場で実践し応用できる“人財”（グローカリスト）、地域力の推進役（キーパーソン：リーダー、マネージャー、コーディネータ）として活躍できる“人財”を育成します。

少人数だからできる「徹底した実践教育」で鍛える。
目が届くからできる「一貫した現場主義」で育てる。

理論や応用など主として教室で学ぶ座学と、企業や行政そして地域の諸活動を対象として社会での実践を通じて学ぶ、フィールド学習（体験学習、インターンシップ、課題解決型学習等のアクティブラーニング）を実施します。

学部長メッセージ

学部長 / 教授　平野 真

日本はもとより世界中のあらゆる国の多くの地域が、経済振興や人口変動など共通の課題を抱え悩んでいる今日、私たちの新しい学部は、「地域経営」という問題を真正面に見据え、かつてない自由な発想と大胆な行動で道を切り拓いていこうとしています。地域の人々と繋がり、若い学生の方々の力を信じながら、私たち教職員がともに手を携えていくことで、ここ福知山の地から、世界に誇れる先進的な大学の実現をめざします。

“地域の経営（マネジメント）”を学ぶ学部・学科編成

“将来の力”を確実に身につけられる学びの特色

特色1　フィールド研究重視の実践的教育システムを採用
地域に深くかかわる実践教育を徹底するため、地域協働型実践教育を実施します。

特色2　大学を挙げて、地域に出向く「積極的地域協働教育研究」
地域が抱える問題に向き合い、大学の資源を活用し、課題の解決に挑戦し、研究・教育・人材育成を進めます。

特色3　的確な課題解決能力を高める、教養教育の充実
地域と世界に通用する人材育成のための教養教育を、専門教育の土台とします。

特色4　各学科の学びに加え、資格取得支援体制を充実
両学科共通で資格取得に向けてさまざまなサポートを行い、資格取得を支援します。

座学と実践的学修を融合したカリキュラム。

時系列的に地域経営学の知見や知識を学び、「知」の総合化を図るカリキュラムの編成

地域づくりや地域の創り直しにはさまざまな立場の人々との連携や協働が必要になります。合理的、効果的に推進していくためには、専門的な知見や知識の総合化（＝地域経営学）が必要です。
そのために、主として１～２年次には語学・教養科目、２～３年次には学部共通科目、３～４年次には学科別専門科目というように、時系列的に基礎から専門へ、幅広い教養と基礎学力を身につけ、地域経営という専門領域を体系的に学べるように科目群を配置しています。

語学・教養科目群

学部共通専門科目群
- 基礎科目例：・地域経営概論　・経営学入門　・経済学入門　・「持続可能な社会」論　・簿記論
- 専門科目例：・地域協働論　・地域資源論　・地域医療福祉論

学科別専門科目群
- 自治体法務政策、行政学等の基礎的な科目
- 各系推奨科目、診療情報管理士受験科目

持続可能な地域社会の構築やグローカリスト育成のための特徴的な科目を配したカリキュラムの編成

環境共生的で活力ある公共・企業経営、安定した経済運営により、地域の人々が福祉の充実のもとで安心・安全・健康に生活できるような「持続可能な社会」の構築や「グローカルな生き方」の達成に向けて、特に学ばなければならない科目を配置しています。

持続可能な社会の構築やグローカリスト育成のための特徴的な科目
- ・多文化共生論　・非営利組織論　・ソーシャルデザイン　・地域イノベーション論　・グローバル・ビジネス　・環境学　など

地域社会を支え、地域の再生・創生等に貢献できる“人財”またそのキーパーソン育成のためのカリキュラムの編成

地域社会を支え、地域の再生・創生等に貢献できる人財、またその推進役（キーパーソン）として活躍できる人財を養成するために、地域の現場で地域の人々との協働を通じて地域の課題解決を図る、実践的学修を中心としたカリキュラムを編成しています。本学の特徴的な「フィールド研究重視の実践的教育システム」、「地域協働型教育研究」を全学年で展開し、４年次の卒業論文につなげます。

演習系科目群
- ・地域経営演習　・地域経営研究　・大学基礎力演習　・国際フィールドワーク　など

専門領域別に、より高度な知識習得、学修成果の向上を図るカリキュラムの編成

● 地域経営学科　公共経営、企業経営、交流観光に関する「推奨科目」を設けて専門知識と地域現場の課題を理解するとともに、営利・非営利のあらゆる事業体や持続可能な地域社会に関する実践的対応力を高めます。

● 医療福祉経営学科　地域医療福祉に関わる診療情報管理士をめざす科目を重点的に配置するとともに、医学、栄養学などの基礎知識、地域医療機関等の経営に資する知識を広く学び実践的対応力を高めます。

学部および2学科のカリキュラム内外に資格取得授業の充実を図り、資格取得の支援を行い、実務能力の向上にもつなげます。

演習系科目群

学科別専門科目群
- ・各系の「推奨科目」　・診療情報管理士受験科目

資格取得科目群
- ・簿記論　・工業簿記　・社会調査論　・臨床医学　・診療情報管理論　など

“成長を実感できる”学びのフロー

体験型から学びを深め、専門的な課題解決型へと、4年間を通じた体系的・計画的な実践教育を行います。

1年次 学びを体験する
体験学修と教養学修を組み合わせて、フィールドワークの基礎的知識を学修する。

2年次 学びを広げる
各自の関心に沿った教養教育、フィールドワークの基礎理論と分析手法の習得、地域活動体験を通じ、課題の発見、分析、解決手法を実践的に学ぶ。

3年次 学びを深める
演習等の学修グループ単位で特定の組織・団体等の課題を対象とするPBL※（課題解決型学習）や地域協働型実践学修で学ぶ。
※ PBL：project-based learning

4年次 学びをまとめる
グループ単位で一定のまとめを行うとともに、卒業論文を個別にまとめる。

グローカリストとして北近畿、日本全国、国際社会の課題へのアプローチ

TOPICS 地域協働型実践教育

民宿ふるま家でのフィールドワーク

地域づくり、持続可能な地域社会の実現に貢献できる"人財"の育成をするために、「地域協働型実践教育」をカリキュラムの中心に位置づけています。
１～２年次には「地域経営演習」という演習系科目において、学外に出て、地域の方々と交流し、地域の現状を自らの目と耳を通じて広く学ぶことで、地域課題を調査・分析するための基礎的な方法を身につけます。３年次からは、「地域経営研究」という科目で、自身の関心にもとづきテーマを絞り込み、地域の方々と協力しつつ、地域課題の解決に取り組みます。これら「地域経営演習」「地域経営研究」で行われる教育が「地域協働型実践教育」です。
また、学外での取り組みが中途半端に終わらないようにするために、これらの科目の開講日を「実践教育DAY」とし、時間割上でもフィールドワークの時間が十分に確保できるよう工夫していることも本学の「地域協働型実践教育」の特徴です。

地域づくり、持続可能な地域社会の実現に貢献できる“人財”の養成

私自身7年前にこの茅葺きの古民家と巡りあって、ここで暮らすことを決めました。都会で暮らしていた私に村の人々は温かく接してくれて、さまざまな田舎暮らしのノウハウを教えてくれました。日本各地から集った若者たちが村を訪れ、活動する、それだけで村は活気づきます。その若者たちがさまざまなアイデアを出し、地域活性化の活動が動き出すことで、少子高齢化が進むこの地域がどのように生き生きと輝きだすのか、とても期待しています。

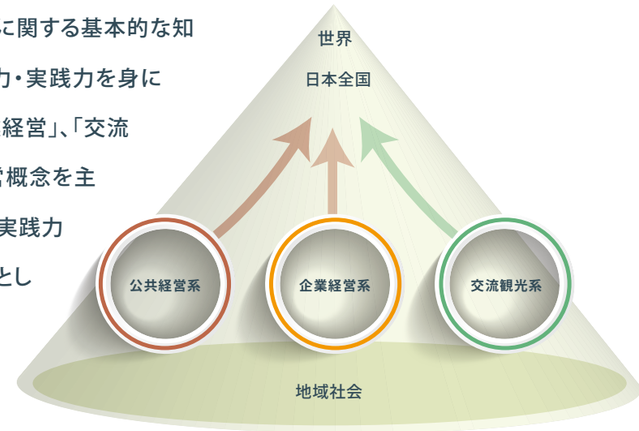
沢田 さやか さん
茅葺き屋根が印象的な古民家で民宿 ふるま家を営む。
自然の中で過ごす贅沢な時間を求めて世界中（実際に多くの宿泊客は外国人）から訪れる人が後を絶たない。

地域経営学部

地域経営学科

地域経営学科は、公共団体や非営利法人、一般企業など地域社会で活動する多様な主体に対して関心を持ち、地域社会の再生や活性化、企業活動の活性化などをめざす“人財”を育成します。

そのため、多様な地域の事業体に関する基本的な知識を学び、これを活用できる応用力・実践力を身につけます。とくに「公共経営」、「企業経営」、「交流観光」の３つの分野に関して、経営概念を主軸において専門的で高度な知識と実践力を兼ね備えた“人財”の育成を目標としています。



知識 knowledge

現代の社会経済、市場、あるいは地域内交流の場において、各主体の社会的役割を理解し、地域の問題や課題の発見につなげることができる。

世界の動きと連動させつつ、持続可能な社会の基本構造を理解し、地域社会における課題の分析に活用できる。

技能 skills

問題解決のための情報を適切かつ的確に収集・分析することができる。

地域のソーシャルデザイン、企業の事業活動、あるいは地域内外の交流の再生・活性化等につながるアクションプランを策定できる。

学びの内容

遂行能力 competence

関係者との連携体制を構築し、現実に即した多様なリーダーシップを意識して使い分けることができる。

十分なコミュニケーション能力をもって、多様な意見・価値観を受け止め、効率的な組織運営に寄与することができる。

総合的到達目標

現代社会における公共性を踏まえた共有すべき社会的価値を理解し、地域経営、企業、あるいは地域の交流観光に関する課題の提示あるいは問題の解決に向けた活動ができる。

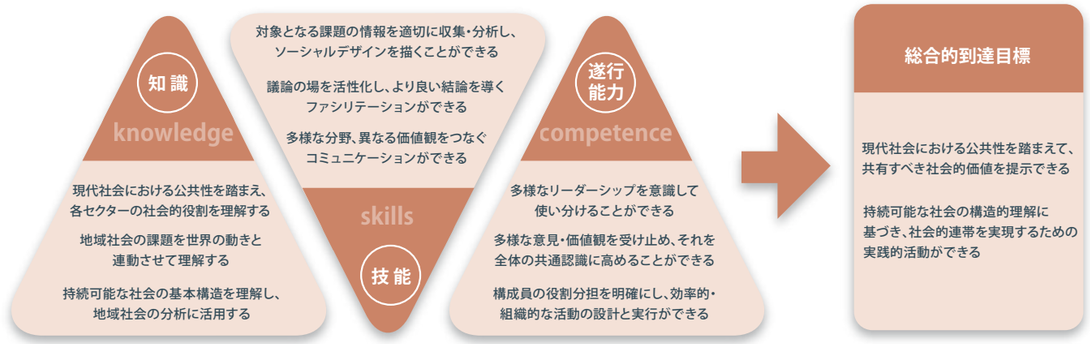
持続可能な社会の構造的理解に基づき、社会的連帯の実現、企業価値の向上、あるいは地域資源の適切な開発に資する実践的活動ができ、PDCAサイクルを実施できる。

地域経営学部
地域経営学科
公共経営系

地域社会は存続をかけて根本的な構造改革に取り組む段階に入っている。

日本が人口減少社会に入ったことで、地域経営環境は地域社会の存続をかけた根本的な構造改革を求める、新たな段階に入っています。行政やＮＰＯ、そして地域のさまざまな活動を対象に、公的組織、非営利団体の社会的意義と役割、運営方法、経営手法を学び、官民協働による持続可能な社会のあり方を理解し、セクターを越えて社会を発展充実させる“人財”を育成します。

4年間の学び



活躍が期待されるフィールド

市役所、町村役場、各種国家機関、NPO 法人・福祉団体等非営利団体、民間企業、等

取得を目指す資格

経営学検定、日商簿記検定、社会調査士、地域公共政策士、ビジネス能力検定、等

例えばこのような講義

公共経営入門

非営利組織・中間的組織を含む幅広い公共的組織の運営を、公平性と効率のバランス、持続可能性という公共経営的視点から取り扱い、「公共」とは何か、行政手法や管理技術、運営の方法、課題や問題点、方向性、等について講じます。

自治体法務政策

自治体が政策を推進していく上で必要な法律の基本的分野の知識、政策を根拠づける法律の知識、自治行政を推進する上で不可欠な国と自治体の法制に関する知識等を踏まえ、自治体自らの法の解釈・運用、条例制定等、地域課題の解決のあり方、等について講じます。

非営利組織論

NPOとは何かという原点を確認し、議員立法で生まれたNPO法の成立過程、NPOのマネジメント・寄付、評価等、今後のNPOを考える上で不可欠なテーマについて講じます。

地方財政論

自治体財政の役割・意義・しくみ、国家財政ならびに県財政との政府間財政関係、財政を通じた住民・企業・行政の経済主体の関係性、自治体運営の課題等について講じます。

VOICE

夢に向かって走り出した先輩たち

島留学で得た貴重な経験を生かして地域経営を学ぶ。

築瀬 丞 さん　島根県立隠岐島前高校出身

出身は千葉県柏市ですが、高校は島根県の隠岐島にある隠岐島前高校。この高校は島の人々との交流を中心とした『ヒトツナギ』という島留学を行っていて、その活動は地域観光プランコンテスト第1回『観光甲子園』で文部科学大臣賞を受賞しています。中学で軟式野球部だった僕はこの島留学に参加し、一緒に野球をしようと誘ってくれた島前高生の先輩の影響もあって島で暮らす決意。島外から集った仲間と寮で暮らし、日々いろいろなことを語り合い家族のような関係を築くことができました。また、地域の人々と密接につながり暮らすうち地域活性化の力になりたいと考えるようになりました。公立1年目の新しい大学で地域経営を学び、多くの人とつながりの輪を広げたいと思っています。先日も先生に丹後半島の伊根町に連れて行っていただき、地域おこしについて話を聞くことができました。高校での貴重な経験を糧に、大学4年間で自分の世界を大きく広げ、さまざまな可能性を追いかけていきたいです。

地域経営学部
地域経営学科
企業経営系

国際化や技術発展などの社会変化に企業はどのように対応していくのか。

国際化の進展、技術や通信手段の急速な発展により、企業を取り巻く環境は大きく変化しています。企業の組織管理、経営戦略、生産管理や新製品の開発等に関わるさまざまな知識や手法を学び、社会の変化に企業はどのように対応しているかについて実践例を用いて理解します。また、自分の考えをまとめ相手に伝える方法など、社会のリーダーになるために必要な資質を身につけます。

4年間の学び

知識 knowledge

企業経営の基礎知識や持続可能な社会の基礎構造を学び、企業の社会的役割・責任を理解する

市場および社会経済の動向を理解する

技能 skills

企業経営に関わる課題を発見できる

問題解決のための情報を的確に収集・分析できる

効率的・組織的なアクションプランを策定できる

遂行能力 competence

企業の生産活動等に寄与するアクションプランを実行できる

十分なコミュニケーション能力をもち、効率的な組織運営ができる

業績評価を的確に行うことができる

総合的到達目標

企業経営や持続可能な社会の構造的理解を踏まえ、企業の企画・運営、資金の流れの把握、貨幣測定、消費者ニーズの把握、商品開発等に関わることができる

企業と社会の関わりを理解し、企業のあるべき姿を描くことができる

活躍が期待されるフィールド

東証1部・2部上場企業、地域民間企業、
市役所、町村役場、県庁、
各種国家機関、非営利団体、等

取得を目指す資格

日商簿記検定、ファイナンシャルプランナー、経営学検定、ビジネス能力検定、公認会計士、税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、社会調査士、等

例えばこのような講義

経営学入門

企業および自治体・NPO等の各種組織のヒト・モノ・カネ・情報という経営資源の効果的な配分・活用の実践的な知識、企業・組織の機能や効率性の分析、財務・会計・マーケティング、労務管理、経営者および組織の合理的行動指針（経営戦略）・倫理、等について講じます。

簿記論Ⅰ

個人事業主を前提として、簿記論の前提となる貸借原理・帳簿組織の基礎知識、簿記一巡の流れ、仕訳による基本的な個々の会計処理、簡易な財務諸表の作成、等について講じます。

地域産業論

地域経済成長や雇用創出の原動力となる地域産業の構造や実態、具体的なデータや事例を通して地域産業の形成メカニズムや競争優位、等について講じます。

地域イノベーション

地域活性化の要となる特産物開発、観光開発、新規ビジネスの開拓を地域社会との協働という視点を持ち、アイデア創出からビジネスプラン作成までの実務的訓練を行うとともに、実際にベンチャーなどを起こしていく際の課題や知識等について講じます。

VOICE
夢に向かって走り出した先輩たち

公認会計士資格取得や日商簿記1級などを目標に。

江崎 公貴 さん　愛知県立杏和高等学校出身

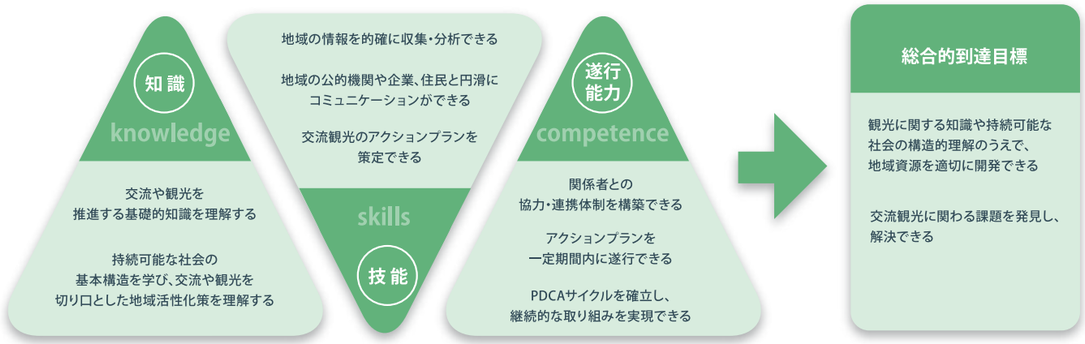
興味を持つと徹底的に追究したくなる僕。たとえば小学6年生で初めて経験したボウリングは高校の時に全国大会に出場するまでに。何気なしに入部した高校の理科部ではNPO法人と連携してホタルの繁殖を研究し、県の研究発表会で優秀賞を受賞。そして、先生の熱心な指導のおかげもあり高校2年生の時、難関の日商簿記2級に合格できました。この資格に大学では磨きをかけ、日商簿記1級そして公認会計士の資格を取得しようと頑張っています。県外への進学はギリギリまで迷ったのですが、一人で暮らし自立して生活できるようになることは社会人に向けての勉強だと思いましたし、地域経営学科で地域との連携についてしっかり学ぶことは将来企業に勤めるにしても必要不可欠なことだと考えました。予想以上に先生との距離が近い大学の雰囲気やすぐにできた友人たちのおかげでホームシックも無くなり、今はサークルの立ち上げやアルバイト（ボウリング場）など充実した生活を送っています。

地域経営学部
地域経営学科
交流観光系

地域に潜在する資源を掘り起こし、交流をキーワードに観光のあり方を構築する。

観光資源として気づかれていなかった地域固有の資源を活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた観光を構築し、発信することは地域活性化に有効です。観光地域づくりの主体が、資源を見直し旅行商品化を通じて、自主財源の確保を促進し、継続して観光地域づくりに取り組み、自立的な経営をすることにより観光地域づくりをビジネスにつなげる、このような動きの核となる"人財"を育成します。

4年間の学び



活躍が期待されるフィールド

旅行関係民間企業、地域民間企業、市役所、
町村役場、県庁、各種国家機関、
非営利団体、等

取得を目指す資格

国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者、
観光士、PR プランナー、経営学検定、日商簿記検定、
社会調査士、等

例えばこのような講義

地域資源論

自然・人工・制度・文化・社会関係等資源の特性・持続性・経済性・利活用のあり方、経営・経済分析の方法、利活用と環境保全との関係性、地域資源利活用の歴史等について事例を交えて講じます。

観光総論

「観光」の基本的な概念、観光立国推進基本法に基づく各種施策、交通機関・旅行会社・宿泊産業・飲食業・物産販売等の観光関係各業種に関する基礎知識等を講じます。

地域農業ビジネス論

農林業の法人化の現状と課題、6次産業化・サービス農業の現状と課題、日本および諸外国の食料・農業・林業政策、地域・地球環境と農林業等について講じます。

グリーンツーリズム論

日本における「グリーンツーリズム政策」の理念・背景・実態、農林漁家民宿や民泊・農林水産物直売所・農山漁村レストラン・道の駅等の「グリーンツーリズム施設」や日本型ワーキングホリデー等「ソフト事業」の現状と課題等について講じます。

VOICE
夢に向かって走り出した先輩たち

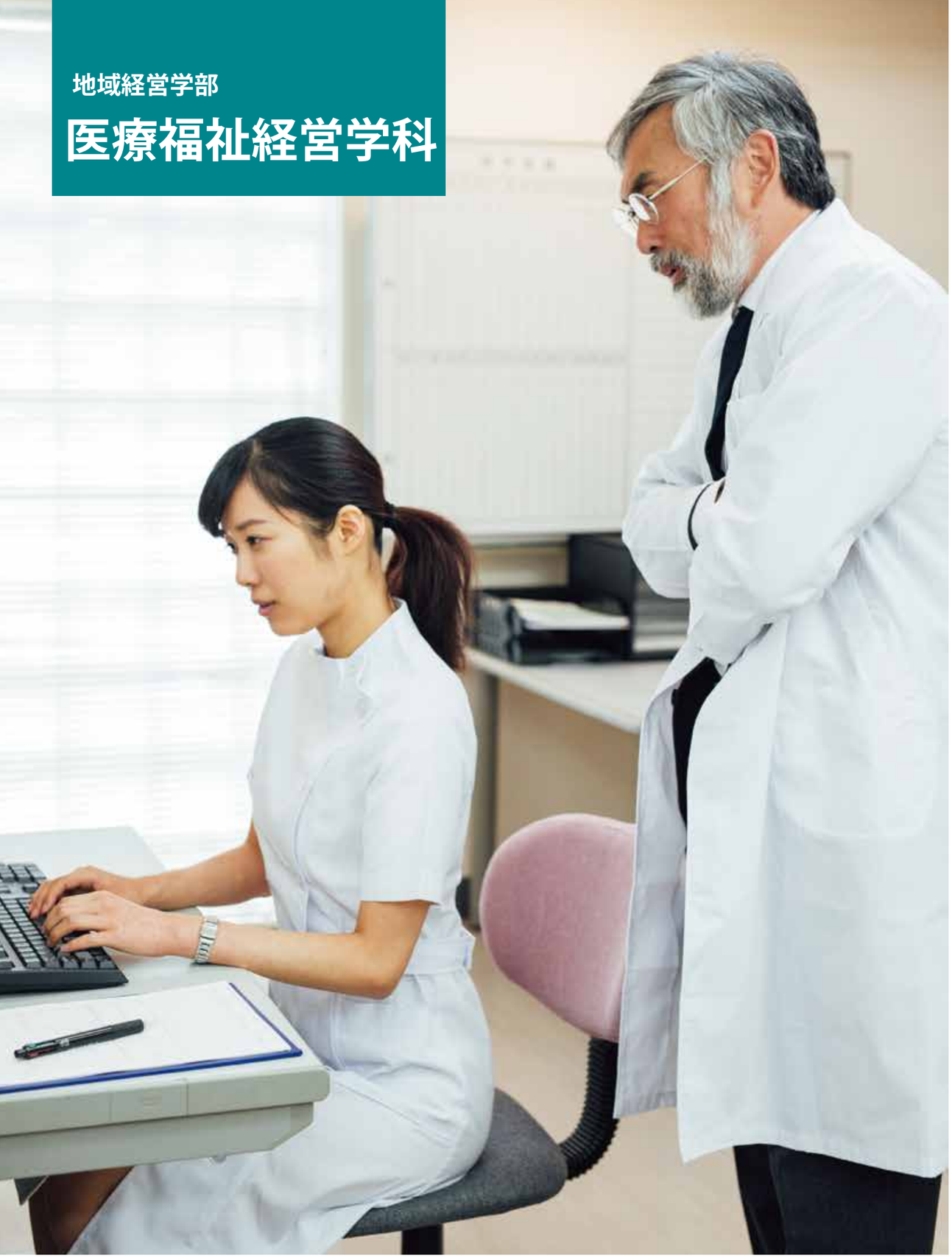
地域の魅力を体感できる旅行を企画できる力をつける。

平野 沙知 さん 和歌山県立新宮高等学校出身

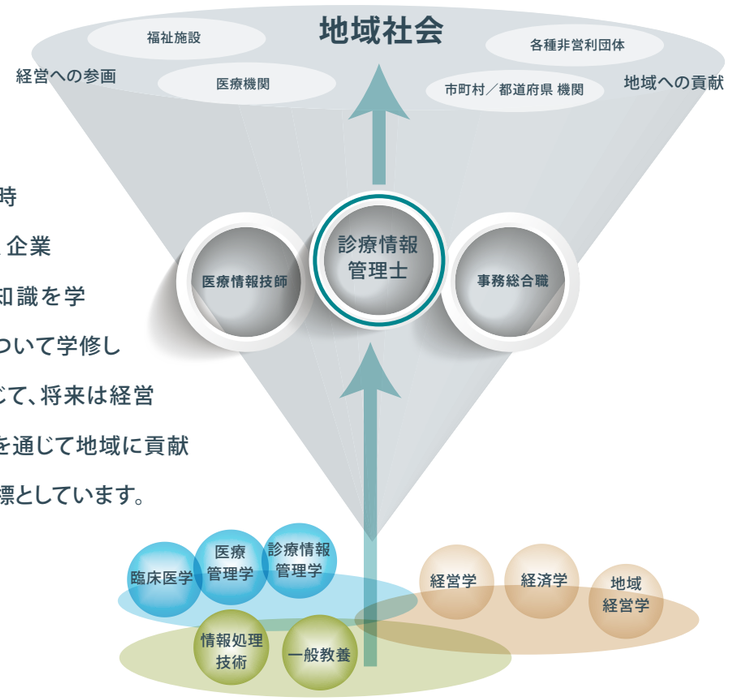
高校の時は手芸部に所属し、紙を素材にしてドレスを制作し地域のイベントや老人ホームなどでファッションショーを行っていました。観客の楽しそうな顔を見ることが嬉しくて、なかでも企画や構成を考える裏方の作業が大好きでした。将来はおもてなしの心を大切にした仕事に就きたくて、いつしか観光分野に興味を抱くように。特に旅先の地域の人々と交流し、その土地の伝統を体験する、地域の住民も観光客もお互いに満足感を共有できる着地型観光という旅行スタイルに魅かれています。フィールドワークを重視したこの大学で、地域に潜在する観光資源を見出す感性を身につけ、地域と交流できる旅行プランを策定するような仕事に就きたいと思っています。その目標に向かって充実した大学生活を送ろうと、入学早々仲良くなった女子6名とボランティアサークルを立ち上げ、募金活動や市役所のイベントのお手伝いなどを始めました。語学も勉強し、アジア方面に留学したい…など夢は膨らむばかりです。

地域経営学部

医療福祉経営学科



医療福祉経営学科は、診療情報管理士（日本病院会等の認定資格）の資格取得をひとつの大きな目標に掲げています。と同時に、医療機関・福祉施設の経営、企業経営、および地域経営の基礎知識を学び、その共通性や相違性などについて学修します。それらの学びの蓄積を通じて、将来は経営に参画できる"人財"、医療福祉を通じて地域に貢献できる"人財"の育成を主要な目標としています。



学びの内容

知識 knowledge

診療情報管理士受験に必要な知識、医療機関等の経営に資する知識を理解できる。

地域医療福祉の基礎知識や持続可能な社会の基本構造を学び、地域医療福祉の重要性と役割を理解できる。

技能 skills

医療福祉機関、地域医療福祉等の課題を発見できる。

課題解決のためのデータ収集・加工・分析を的確に実施し、アクションプランを提案できる。

医療職と非医療職間、医療福祉機関と地域住民等の専門知識の非対称性を緩和し、円滑な情報交換を支援できる。

遂行能力 competence

適切な情報を適宜発信し、関係者間の理解を深め、同意を形成できる。

他の医療機関職間の共通言語を理解し、業務に活かすことができる。

組織経営、地域経営を円滑に進めるために、リーダーシップとパートナーシップを柔軟に使い分けることができる

総合的到達目標

医療福祉の知識や持続可能な社会の構造を理解し、地域医療福祉に関わる課題解決のためのアクションプランを策定できる。

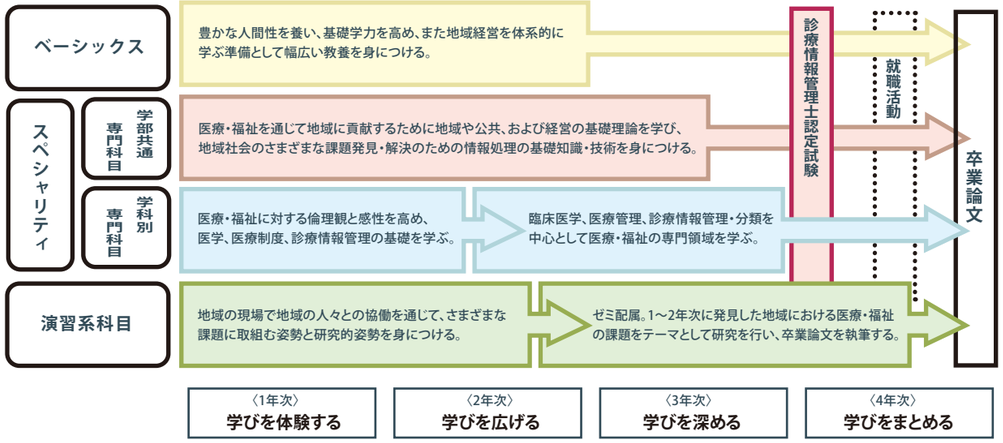
アクションプランの実行と継続的評価・改善を目的としてPDCAサイクルを実施できる。

地域経営学部
医療福祉経営学科

診療情報管理士資格の取得を通じて、医療福祉の現場と経営を支える一員となる。

医療における情報のエキスパートである「診療情報管理士」（日本病院会等の認定資格）の資格取得をめざしつつ、法学・経済学・心理学などの幅広い教養、財務・人事・労務など組織経営・地域経営の基本、および課題解決のためのデータ収集・加工・分析の技術を身につけ、将来は、医療機関・福祉施設の経営に参画できる“人財”、医療福祉を通して地域に貢献できる“人財”を育成します。

4年間の学び



活躍が期待されるフィールド

国公私立病院、医療・福祉団体、市役所、町村役場、各種国家機関、非営利団体、等

取得を目指す資格

診療情報管理士、医療情報技師、診療報酬請求事務能力検定、社会福祉主事任用資格、等

例えばこのような講義

医学英語

病名や薬剤名などの医学用語は、プロフェッショナルとしての診療情報管理士の必須の知識です。医学英語（会話）を中心に、全ての用語について日英両方を学びます。

診療情報管理論

医療機関において実施されるすべての医療サービスの記録である診療情報の概念や関連法規、および情報管理の手法について学びます。

医療管理論

わが国における医療の現状と制度の変遷、医療の関連法（医療法・健康保険法、医師法など）や医療専門職の現状とその役割について学びます。

医療統計学

統計学の基礎を元に、記述統計・推測統計について医学的な知識を織り交ぜて学びます。また医学・医療における統計の重要性を、データの活用方法を通して学びます。

VOICE
夢に向かって走り出した先輩たち

故郷福知山の活性化に貢献できるようがんばりたい。

堀江 悠太 さん　京都府立福知山高等学校出身

生まれも育ちも福知山ですが、実は高校卒業後1年間北海道の理系の国立大学に在学していました。土木工学を学んでいましたが、徐々にこれでいいのだろうかと漠然とした将来への不安感を抱くように。そんな時地元福知山に公立大学開学のニュース。医療福祉の分野なら今までの理系の学びが無駄にはならないと考え選択しました。入学して何より驚き嬉しかったのは先生との距離の近さ。廊下ですれ違っても気軽に声をかけてくださり、講義での不明点の質問も気軽にすることができるので、しっかりと理解して次のステップに移ることができます。この学科に入ったからには、先ず診療情報管理士の資格を取得することを目標にしますが、並行して英語の勉強もしたいと思っています。外国に留学に行くというのもぜひ達成したい目標なのです。将来は診療情報管理士の資格を生かして病院で勤務するか、故郷福知山のために公務員として働くか、前を向いて進みながら考えていきたいと考えています。

教員一覧

熱い気持ちで待っています。
一緒に学びましょう！

平野 真 学部長 / 教授 HIRANO,Makoto

専門分野 国際経営学、地域活性化論、起業論、イノベーション論、技術経営

現在の研究テーマ
- IT技術の活用により、地域の中小企業や自治体がどのように発展していけるか
- アートや埋もれていた文化の活用により、地域全体がどのように魅力を増し活力を得られるか

芦田 信之 教授 ASHIDA,Nobuyuki

専門分野 医療情報学、福祉情報学

現在の研究テーマ
- ユビキタス医療・福祉（ICT活用による健康管理）
- 高齢者の健康増進（運動・栄養・知的好奇心による高齢者の健康増進）
- ヘルスツーリズム（健康増進をめざした地域観光資源開発）

遠藤 尚秀 教授 ENDO,Naohide

専門分野 管理会計論、経営分析、内部統制論、パブリック・ガバナンス、地方公会計論

現在の研究テーマ
- 具体的な民間企業のデータに基づく財務分析
- 地方公共団体の開示の充実と財務・非財務データを使ったマネジメント
- 地方公共団体のあるべき内部統制、監査制度

岡本 悦司 教授 OKAMOTO,Etsuji

専門分野 医学、法学、公衆衛生学

現在の研究テーマ
- 医療機関が出す医療費データを地域住民の健康増進に活用する
- 糖尿病の重症化を予防して透析なしでいきてゆける社会の実現
- 老後も地域にすみつづけられる地域包括ケア体制の構築

神谷 達夫 教授 KAMITANI,Tatsuo

専門分野 音響工学、信号処理、コンピュータハードウェア・ソフトウェアの設計

現在の研究テーマ
- ビデオゲームが人体に与える影響
- 視覚と聴覚の相互作用、視聴覚刺激による疲労の測定
- 音楽の情報理論的解析

齋藤 達弘 教授 SAITO,Tatsuhiro

専門分野 ファイナンス、銀行論、金融論

現在の研究テーマ
- 地域活性化と地方からの新規株式公開
- 地方に本社を置く上場企業の財務政策
- 地域密着型金融における目利き力

篠原 正人 教授 SHINOHARA,Masato

専門分野 経済学、経営学（特に、海運経済学、港湾経営学、物流経営学、サプライチェーン・マネジメント論、異文化経営学）

現在の研究テーマ
- わが国の港湾経営のあり方・物流人材のあり方（特に舞鶴港の活性化）
- 海事プロフェッショナル育成の今後
- 異文化間の国際物流における意思決定方式・はたらき方比較

谷口 知弘 教授 TANIGUCHI,Tomohiro

専門分野 地域政策、コミュニティ・デザイン、ワークショップ

現在の研究テーマ
- 地域資源を活かした地域育ての研究と実践
- 協働型デザインプロセスによるソーシャル・キャピタルの醸成
- 共創を生むワークショップの開発と運営

中尾 誠二 教授 NAKAO,Seiji

専門分野 社会経済農学（都市農村交流）、地域研究

現在の研究テーマ
- 体験型教育旅行・インバウンド観光・U I ターン者の受入による農山漁村の地域活性化

福島 貞道 教授 FUKUSHIMA,Sadamichi

専門分野 建築・都市行政、景観・まちづくり政策

現在の研究テーマ
- 法治制度下におけるまちづくり政策と行政の役割
- 法治制度下における景観・まちづくり政策等
- 歴史から学ぶ地域の魅力の発掘と発信

三品 勉 教授 MISHINA,Tsutomu

専門分野 経営工学、経営管理論、経営戦略論

現在の研究テーマ
- 経営科学による戦略事業策定と業績評価
- チーム内意見調整と業務効率の向上
- 産業クラスター構築に関する実証的研究

矢口 芳生 教授 YAGUCHI,Yoshio

専門分野 農業経済学、農業政策論、環境経済学、共生社会システム学

現在の研究テーマ
- 地域農業のビジネス化・システム化・活性化に関する研究
- 共生社会（持続可能な社会）の構築に関する研究

吉田 周邦 教授 YOSHIDA,Chikakuni

専門分野 財務諸表論、簿記論、会計監査論、国際会計論、国際監査論

現在の研究テーマ
- 我が国の「一般に公正妥当と認められる企業会計の基準」と国際会計基準・米国会計基準等との比較研究
- 国際監査基準や我が国の監査の基準における「組織的監査における職業的懐疑心」の研究

Eric Charles Hawkinson 准教授

専門分野 Games Based Learning、Digital Informal Learning Environments、eTourism

現在の研究テーマ
- Technology use and implementation in education such as augmented reality.
- Design of digital and non-digital informal learning environments
- The use of TED in education

加藤 好雄 准教授 KATO,Koyu

専門分野 地域科学、マーケティング

現在の研究テーマ
- ホテルの類型化と立地分析
- 旅行者の行動分析

塩見 直紀 准教授 SHIOMI,Naoki

専門分野 ソーシャルデザイン、ローカルデザイン、ライフスタイルデザイン

現在の研究テーマ
- 持続可能なライフスタイルの研究（半農半Xコンセプトを中心に）
- 地域資源を活かした若い世代のローカルビジネス創出
- 「使命多様性」社会のための教育、ワークショップ

佐藤 恵 准教授 SATO,Megumi

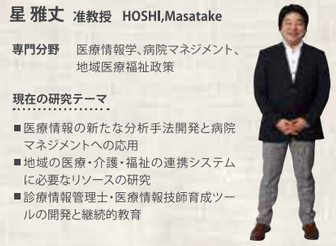
専門分野 医療情報学、品質管理学

現在の研究テーマ
- 国際疾病分類の分類作業の作業分析と標準化
- DPC/PDPS請求業務の工程管理
- 診療情報管理士を含む医事課職員の職場訓練法の構築

杉岡 秀紀 准教授 SUGIOKA,Hidenori

専門分野 公共政策学、地域政策、大学まちづくり論、地域公共人材論、NPO論

現在の研究テーマ
- わが国の大学と地域の連携・協働による地域公共人材の育成と質保証のあり方についての研究
- プロボノについての研究
- フューチャーセンターについての研究



星 雅丈 准教授 HOSHI,Masatake

専門分野 医療情報学、病院マネジメント、地域医療福祉政策

現在の研究テーマ
- 医療情報の新たな分析手法開発と病院マネジメントへの応用
- 地域の医療・介護・福祉の連携システムに必要なリソースの研究
- 診療情報管理士・医療情報技師育成ツールの開発と継続的教育

三好 ゆう 准教授 MIYOSHI,Yu

専門分野 財政学、地方財政論

現在の研究テーマ
- 原子力発電所保有自治体の経済・財政構造分析
- 震災復興財政における政府間関係

江上 直樹 助教 EGAMI,Naoki

専門分野 教育行政、教育財政、地域政策

現在の研究テーマ
- 私的支出をふまえた公正な教育資源配分のあり方
- 公的支出に限らない新たな教育資源の調達手法
- 地域リソース等の資源を活用できる人材育成のあり方

佐藤 充 助教 SATO,Mitsuru

専門分野 地域産業論、中小企業論、地域イノベーション論、PBL教育

現在の研究テーマ
- 地域の産業が持続的に発展するメカニズム
- 知識や情報が結びついて、新たな価値が生み出される仕組み
- 地域社会の課題を解決できる人材を養成する学習プログラム

張 明軍 助教 ZHANG,Mingjun

専門分野 国際経営

現在の研究テーマ
- 単純明快中国語学習方法
- 農山村地域におけるグローバル化のあり方
- 北近畿地域におけるインバウンド観光資源開発

Campus Life

豊かな緑に囲まれた高台の閑静なロケーションのもと、しっかり勉学に集中できる環境が整えられています。また、大学生活を4年間、楽しむことができるよう施設設備にも配慮されています。
安全で暮らしやすい街、福知山で充実したキャンパスライフを過ごしましょう!

Campus Life

キャンパス カレンダー

ないなら作ろう! クラブ活動

開学間もない福知山公立大学は、クラブの数がまだまだ少ない状態。それはあなたが創設者になれる貴重なチャンスがあるということ。これから積み重ねていく伝統のクラブの礎を作りましょう!

硬式野球部

京滋大学野球連盟1部で奮闘を続けています。皆さんの参加を待っています。

学友会

大学祭をはじめ、学生主体のさまざまなイベントの企画・運営をする中心的組織です。

グローカル アクティベーション サークル

入学早々、1年生有志によって立ち上がったボランティアサークル、通称GAC。熊本地震の募金活動など、積極的な活動を開始しています。

留学生会

留学生同士の親睦、地域との交流を深め、留学生活を充実したものにするためにさまざまなイベントに積極的に参加しています。

軟式テニスサークル

軟式テニスを通して楽しみながら体力をつけるのが目的のサークルです。経験者も初心者もみんなでとにかく楽しみましょう。

福龍(バスケットボールサークル)

「バスケットは未経験」「大学生になって久しぶりにバスケットをする」という学生が多く、誰でも気軽に参加できるサークルです。

● 大学祭

● 福知山マラソン協力

● 集中講義期間
● 統一補講日
● 後学期前半授業終了
● 冬期休暇
● 後学期後半授業開始
● 後学期授業最終日
● 統一補講日
● 後学期定期試験期間
● 後学期終了

● 卒業式・学位授与式

4 APRIL | 5 MAY | 6 JUNE | 7 JULY | 8 AUGUST | 9 SEPTEMBER | 10 OCTOBER | 11 NOVEMBER | 12 DECEMBER | 1 JANUARY | 2 FEBRUARY | 3 MARCH

● 入学式

● フレッシャーズツアー

● オリエンテーション

● 前学期授業開始

● 前学期授業終了
● 前学期試験
● 集中講義期間
● 夏期休暇
● 前学期学位授与式
● 後学期授業開始

就職サポート スケジュール

春の就活特別ゼミ ●

進路・就職ガイダンス ●
個人進路相談〈・将来設計と進路・就職活動の進め方・進路登録表の提出・就職講演会〉

進路面談 ●

ビジネスインターンシップ ●

企業研究セミナー ●

新学期キャリア支援ガイダンス ●
キャリア形成講座〈・社会人基礎力の涵養・やる気〉

入学キャリア支援ガイダンス ●
キャリア形成講座〈・働くとは・自分の夢・夢を叶える・就業力〉

・同じ教員が入学から卒業まで履修指導や進路・生活相談等を行う「担任制」の導入
・将来を見据えた大学生活を実現する「マイプライベート・ポートフォリオ」の導入

Campus Life

キャンパス 施設・設備

4号館 メディアセンター

6万冊以上の蔵書とインターネットなどの通信環境も整備されています。レポート作成や自習時間に最適のスペースとなっています。

4号館 PC演習室

情報系の講義での使用以外にも、レポートの作成やプレゼンテーション用の資料づくりにも活用されています。

4号館 大講義室

250人以上が収容できる大教室では、大人数での講義に使用されるほか、公開講座などにも利用されています。

4号館 ミニシアター

大きなスクリーンと音響設備を完備したシアター。臨場感に溢れた視聴環境を提供しています。

4号館 セミナー室

演習など少人数での講義などで使用します。先生とのコミュニケーションもしっかり築ける教室です。

4号館 講義室

座学の講義に使用される講義室にはさまざまなタイプがあり、どの部屋からも熱心な先生の声が聞こえてきます。

1号館 事務局

学生生活全般にわたって何かと頼れる事務局のスタッフ。分からないことや相談したいことなど遠慮なくどうぞ。

芙蓉ホール 学生食堂

講義で集中した後は、友人とのリラックスタイム。集中した精神をゆるめることも大切です。そんなときは美味しいランチを楽しむのが一番！ 定食やアラカルトなど飽きのこないメニューを揃えています。

● にじイロランチ 500円

● たらこパスタ 400円

● 福知山市内の有名店が揚げパンを学内で販売中。

カレーパン 180円

揚げパン 180円

福知山公立大生プチ調査

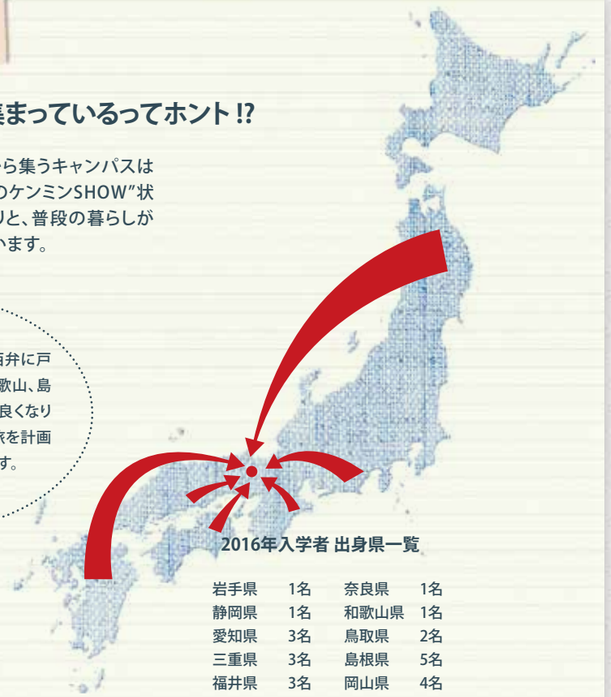
福知山公立大生は全国から集まっているってホント!?

地域経営を学びたいという学生が全国から集うキャンパスはさまざまな方言が飛び交う、まさに"秘密のケンミンSHOW"状態。下宿でお国自慢料理を披露しあったりと、普段の暮らしがさまざまな地方の知識吸収の場になっています。

TVでしか聞いたことのない関西弁に戸惑ったのもつかの間。三重や和歌山、島根といろいろな県の出身者と仲良くなりました。それぞれの地元を巡る旅を計画中。これからの4年間が楽しみです。

初めての一人暮らし、
まだまだ生活費の使い方がうまくなくて…。
カレーをいっぱい作って、少しずつ食べたり、
アルバイトをはじめたり、
いろいろ頑張っています。

大分県立大分雄城台高等学校出身
福吉 菜々さん



2016年入学者 出身県一覧

岩手県	1名	奈良県	1名
静岡県	1名	和歌山県	1名
愛知県	3名	鳥取県	2名
三重県	3名	島根県	5名
福井県	3名	岡山県	4名
石川県	1名	山口県	1名
滋賀県	2名	愛媛県	1名
京都府	14名	福岡県	1名
大阪府	2名	熊本県	1名
兵庫県	8名	大分県	2名
		留学生	1名

Campus Life

キャンパス 周辺紹介

福知山市街 周辺MAP

福知山市は京都・神戸・大阪各市から60～70kmの距離にあり、国道9号線をはじめとする国道や舞鶴若狭自動車道、JR山陰本線・福知山線および京都丹後鉄道が通る北近畿の交通の要衝として、発展を遂げてきました。
市内には明智光秀の築城と伝わる福知山城をシンボルに、多くの観光・商業施設があります。また地域医療の拠点である福知山市民病院、国内有数の規模を誇る内陸型工業団地、約8万人の人口に対して6つの高等学校が立地するなど、豊かな自然と高次の都市基盤、充実した生活・教育環境を有する北近畿の中核都市です。
福知山公立大学は、地域の将来を担う人材を育成し、地域社会の発展や地域産業振興に寄与するため、『教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想』に基づき、2016年4月に誕生しました。

福知山駅より

- 福知山駅北口より京都交通バス堀循環線にて「平和公園下」または「小谷ケ丘」下車、徒歩4分。
- 福知山駅南口よりタクシーにて5分。
- 徒歩にて25分。

北近畿エリア 学びの拠点

舞鶴赤れんがパーク

旧海軍施設。映画のロケ地やプロジェクションマッピング等、文化芸術の拠点です。

天橋立

日本三景のひとつ。宮津湾と阿蘇海を隔てる砂州。砂浜を歩いてみよう!

城崎温泉

平安時代から知られている温泉。外湯巡りを楽しみましょう。

竹田城

霧により霞むことが多く、天空の城や日本のマチュピチュとも呼ばれます。

京阪神エリア 少し足を運べば行けるスポット

京都市街

1時間ちょっとで古都京都へ。時間が開けばフラッと市街へ出かけよう。

神戸

ハイカラな港町はおしゃれなショッピングゾーン。洋菓子もお勧めです。

大阪

活気ある街にも出かけてみたいもの。お笑いの本場吉本も見逃せません。

奈良

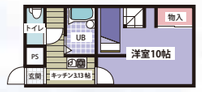
癒しを求めるなら奈良公園。木漏れ日のなか、鹿と戯れましょう。

福知山市街 アパート・下宿情報

本学には寮等はありません。下宿が必要な場合は、各自で下宿先をご契約いただく必要があります。
福知山市のワンルームマンションの家賃相場は30,000円～50,000円程度です。
※学生向けの入居特典がある物件等もあります。

アパート情報

間取り／1K（27.30m²）
賃料／30,000円
共益費／2,500円
敷金／30,000円
礼金／30,000円
オール電化（IHヒーター付）、
NTT光導入済、
駐車場有（月額5,000円）



間取り／1K（23.18m²）
賃料／45,000円
共益費／ 0円
敷金／50,000円
礼金／0円
エアコン、冷蔵庫、洗濯機、
電子レンジ、室内家具有
共益費・水道代・自治会費含む
ネット利用は使い放題!!

Campus Life

学費・奨学金

学費 平成29年度

福知山公立大学の入学金・授業料等

区分	入学金	授業料	実践教育実習費	合計
前期分	282,000円	267,900円	20,000円	569,900円
後期分	―	267,900円	20,000円	287,900円
年間	282,000円	535,800円	40,000円	857,800円

※別途、諸経費として、63,660円を徴収します。

奨学金 日本学生支援機構

日本学生支援機構の奨学金および貸与額は以下の通りです。

種　別	制度の概要	貸与金額（月額）
第一種奨学金	貸与制（無利子） ※右記金額から選択	自宅通学者　30,000 円、45,000 円 自宅外通学者　30,000 円、51,000 円
第二種奨学金	貸与制（有利子） ※右記金額から選択	30,000 円、50,000 円、80,000 円、100,000 円、120,000 円

学生支援制度 福知山市が設ける独自の制度

本学入学者を対象に、経済的理由により修学が困難な学生を支援し、地域に根ざした人財を育成するため、福知山による以下の給付制度が設けられています。

● 福知山公立大学入学支援金（給付型）

対象者		給付金額
Ⓐ 保護者の所得が福知山市の定める基準を満たす者	福知山市出身者	282,000円
	福知山市外出身で市内に住所を有する者	94,000円
Ⓑ 福知山市出身者（Ⓐを除く）		30,000円

● 福知山公立大学奨学金（給付型）

対象者		給付金額（月額） ※他の奨学金との併給も可
学業成績が優秀かつ保護者の所得が福知山市の定める基準を満たす者	福知山市出身者	20,000円
	福知山市外出身で市内に住所を有する者	10,000円

Campus Life

入試情報

入試 入試のポイント

- 入学定員が昨年度入学定員の2.4倍（50名→120名）に増加
- 一般入試は「分離・分割方式（前期日程・後期日程）」で実施
- 前期日程は5教科型（教科指定）、3教科型（教科指定無し）の2つの方式から受験選択が可能

一般入試

入試区分	前期日程		後期日程
	5教科型	3教科型	
募集人員	地域経営学科：35名 医療福祉経営学科：10名	地域経営学科：15名 医療福祉経営学科：4名	地域経営学科：10名 医療福祉経営学科：3名

区分	教科	科目	前期日程 5教科型	前期日程 3教科型	後期日程 ※5教科受験必須
大学入試センター試験利用教科・科目	国語	「国語」	200点	高得点 3教科	高得点 4教科
	地理歴史 公民	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」から1	200点		200点
	数学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」から1	200点	200点	200点
	理科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2 または「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1	200点	200点	200点
	外国語	「英語」（リスニング含む）	200点		200点
個別学力検査	小論文		200点	300点	200点
合計			1200点	900点	1000点

推薦入試

募集人員	地域経営学科：35名（うち地域枠17名程度、専門学科枠3名程度） 医療福祉経営学科：8名（うち地域枠3名程度、専門学科枠1名程度）	
主な出願条件	・コミュニケーション能力が優れていると学校長が推薦する者 ・国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語の６教科の評定平均値3.8以上の者 （専門学科枠は全体の評定平均値3.8以上の者で本学の指定する資格の取得者）	
選考方法	第一次選抜 小論文	第二次選抜 グループ面接

※その他、社会人入試、私費外国人留学生入試及び編入学試験を実施します。
上記は概要ですので、詳細は必ず募集要項でご確認ください。